

真宗教学学会高山大会記録誌

報恩講 — 伝承から新たな伝統へ —

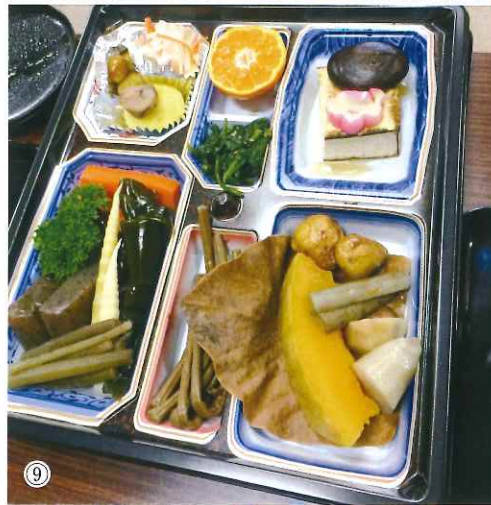
高山教区教化研究所 編



御遠忌 (2019年5月)・報恩講の儀式 高山別院

- ①『正信偈』真四句目下・念仏讃洵五 (和讃：五十六億七千万) の同朋唱和 (御遠忌)
- ②『報恩講式(私記)』『歎徳文』の拝読 (御遠忌)
- ③「御絵伝」の奉掛 (御遠忌)
- ④【御伝鈔】の拝読 (御遠忌)
- ⑤ 御遠忌・報恩講翌日の晨朝に勤められる「お浚え」勤行 (報恩講)

報恩講 — 伝承から新たな伝統へ —



各寺院・各地域で勤められる報恩講（御七昼夜）

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| ⑥ 高山一組咲芳寺報恩講     | ⑩ 高山二組玄興寺御七昼夜      |
| ⑦ 益田組浄福寺報恩講お斎準備  | ⑪ 国府町瓜巢山本班報恩講のおかざり |
| ⑧ 高山二組秋聲寺報恩講お斎風景 | ⑫ 清見町牧ヶ洞上組班の報恩講    |
| ⑨ 荘白川組浄念寺報恩講お斎   | ⑬ 清見町牧ヶ洞上組班の報恩講お斎  |

## 報恩講―伝承から新たな伝統へ― 目次

表紙 題字 三島 多聞  
版画 窪田 純

巻頭言	高山教区教化研究所所長 四衢 亮	8
真宗教学学会高山大会 大会趣旨文	.....	10
真宗教学学会高山大会 当日日程	.....	12
記念講演① テーマ 「知恩の倫理―報恩講の伝統を視点として―」に学ぶ	講師 教学研究所員 鶴見 晃	13
記念講演② テーマ 報恩講の成立と展開	講師 大谷大学前学長 草野 顕之	35
研究発表 (要旨)		
「教えから見えてくる報恩講」研究班	.....	58
テーマ 親鸞における報恩―本願への応答	発表者 益田組 淨福寺 三木 朋哉	
「儀式から見えてくる報恩講」研究班	.....	64
テーマ 儀式から見る報恩講―場の目的と願い	発表者 吉城組 西念寺 三島 見らん	
「伝承と現状から見えてくる報恩講」研究班	.....	71
テーマ 「伝承から見えてくる報恩講」	―アンケート調査より見る、現在の報恩講の実態	
報告 報恩講に関する飛騨地域内アンケート調査結果	発表者 高山一組了泉寺 北條 秀樹	
事前学習① テーマ 報恩講・御遠忌の歴史	.....	82
講師 同朋大学准教授 安藤 弥		
事前学習② テーマ 報恩講―伝統と己証、そして変容	.....	121
講師 同朋大学大学院講師 蒲池 勢至		
《関連講議》 宗祖御遠忌推進委員会法要教化部会研修会	.....	151
テーマ 「伝統儀式」と「同朋唱和」	講師 儀式指導研究所研究員(本廟部出仕) 竹橋 太	
講師・筆者・発表者・研究班	.....	172
発刊に寄せて	高山別院輪番 三島 多聞	174
あとがき	高山教務所長 出雲路 善公	176

## 伝承から新たな伝統へ

高山教区教化研究所長

四 衢 亮

善導大師は、私たちの教法について、

経というは、経なり。経よく緯を持ちて匹丈を成ずることを得て、その丈用あり。

〔観経疏〕・『浄土真宗聖典全書』一・六六〇頁

と示されます。私たちの日々の様々な出来事である緯（よこ糸）を、教えが経（たて糸）として受け止め、人生という匹丈（布）が織り上げられるのでしょうか。

生活の一つひとつを、教えを通して自身と世の事実にながら日々を送り、年に一度の報恩講で、教えに受けとめられて、どんな一年が織り上げられたのかを確認するのが真宗門徒の生活です。

それは、まさに親鸞聖人が、

二河のたとえに、一分二分ゆくといはは、一年二年すぎゆくにたとえたるなり。諸仏の直説、如来成道の素懐は、凡夫は弥陀を念ぜしめて、即生するをむねとすべしとなり。

〔一念多念文意〕・『真宗聖典』五四五頁

と語られるように、文字通り一年二年とたまわった人生を、如来のうながしによって尽くす真宗門徒の歩みです。

その歩みの中心にある報恩講が飛驒の地に伝わって七百有余年。この度、高山教区・高山別院の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を迎えるにあたり、その報恩講に焦点を当て、報恩の歩みを確かめ、さらなる展開への起点としたいという機運が高まりました。

そのことを踏まえ、私たち高山教区教化研究所では、「宗祖が示された報恩謝徳の精神」「仏事という形にまでなった報恩講の形を遡り源流を尋ねる」「飛驒に伝承されてきた報恩講の歴史と現状」、以上三つのテーマについて学びを進めることによって、その起点とすることを志向しました。そして、研究所にテーマごとに三つの班を設け、関係資料の収集、アンケート及び現地調査を実施し、学習を重ねました。さらに、二〇一七年五月十八日に開催された真宗教学学会高山大会とそれに向けた事前研修において、各分野の先生方からも多くの教えと示唆をいただき、高山大会では、研究員によるテーマごとの研究発表を行うことも出来ました。

この度、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要教化事業の一環として、真宗教学学会高山大会の内容を中心に、高山教区教化研究所として取り組んでまいりました報恩講についての学びを、記録誌（学習資料）に取りまとめることが出来ました。この度の出版を、飛驒の真宗において、伝承されてきたこれまでを確かめ、新たな伝統を切り開いていくための礎としたいと願っています。

## テーマ 報恩講―伝承から新たな伝統へ―

現在、高山教区では、二〇一九年の「教区・別院 宗祖御遠忌」に向けて、報恩講の見直しと復興が課題として、取り組みが進められています。

報恩講は、真宗門徒の原点であり、宗祖の教えをいただいで生きる姿勢を確かめる仏事として、いかなる年も絶えることなく、各寺院はもろろん、ご門徒のご家庭や地域でも営まれてきました。

しかし今日、伝承されてきた報恩講は、寺院での参詣が減少傾向にあり、家庭の中で営まれることも少なくなってきました。さらに、地域などでも報恩講は勤められていますが、長年続けられる中でその意味が曖昧となり、祖先の御恩に対する行事という色彩もおびえています。

親鸞聖人の門徒として、教えをいただいで生きることを大事とし、歩みができることを何よりの御恩として表現し、姿勢を確認する仏事であることが十分に伝えきれていないということではないでしょうか。

しかし、報恩講の伝統が全て消えてしまっているわけではありません。毎年勤められる大切な仏事として形は残っています。このことを手がかりとして報恩講本来の意味を確認し、新たな伝統として再出発していくことができる余地はまだあるのではないのでしょうか。

このようなことから、真宗教学学会高山大会では、「報恩講―伝承から新たな伝統へ―」をテーマとし、三つの切り口により取り組みます。

- 一、教えから見えてくる報恩講
- 二、伝承と現状から見えてくる報恩講
- 三、儀式から見えてくる報恩講

年輩の方から、「報恩講っていうのは、あれはいいもんだった」「今はやらんようになったなあ」という話を聞くことがあります。「いいもんだった」というのは、子どものころ親戚や近所の方が集まり、にぎやかな中で年に一度の「報恩講のごつおう」をいただいたという思い出から出てくる言葉だと思われれます。それは、そうした習俗にまでなつて、年中行事として代々伝えられてきた中で育った人々によって報恩講が受け継がれたことを物語っています。そして、「今はやらんようになったなあ」というのは、伝えられる中でその意味がわからなくなり、大切な仏事としての意義が見失われていることの表れなのかもしれません。

まず、「報恩謝徳」を教学の課題として学び、意味を確認すること。二点目には、伝承されてきた飛驒の報恩講について掘り起し、それが現在どういう形で、どうした意識で開かれているかを調査確認すること。三点目には、仏事の儀式作法として伝えられてきたことが報恩講の柱である点から、その成り立ちと由来、伝えられてきた歴史と形について確認することです。

この三点の課題に取り組むことから、「教区・別院 宗祖御遠忌」を起点として、これからの飛驒の真宗に新たな報恩講の伝統を築く歩みを見い出してまいりたいと考えます。

## 真宗教学学会高山大会 当日日程 2017年5月18日 開催

### ❖ 会場 高山別院 御坊会館

午前 10時30分	開会式
11時	研究発表
	①「教えから見えてくる報恩講」研究班 発表者 三木 朋哉氏
	②「儀式から見えてくる報恩講」研究班 発表者 三島見らん氏
	③「伝承と現状から見えてくる報恩講」研究班 発表者 北條 秀樹氏
12時	昼食休憩 手づくり飛騨の郷土料理 (会場 庫裡ホール)

### ❖ 会場 高山別院 本堂

午後 1時	記念講演① 「知恩の倫理―報恩講の伝統を視点として―」に学ぶ 講師 鶴見 晃氏
2時10分	休憩
2時20分	記念講演② 報恩講の成立と展開 講師 草野 顕之氏
3時30分	質疑
4時	閉会式
5時	レセプション (会場 ひだホテルプラザ)

### 真宗教学学会高山大会 記念講演①

## 「知恩の倫理―報恩講の伝統を視点として―」に学ぶ

真宗大谷派 擬講・教学研究所属員

鶴 見 晃

### はじめに

ただいまご紹介いただきました真宗大谷派教学研究の鶴見と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は、三月三十一日に急逝された安富信哉先生がお話をされる予定でありましたが、この数年、お側近くで学ばせていただいた者という事でご指名をいただいたことと存じます。誠に力不足でございますが、しばらくお時間を頂戴したいと思います。

本日は、「知恩の倫理―報恩講の伝統を視点と

して―」に学ぶ」という長い講題を出させていただきました。安富先生が、「知恩の倫理―報恩講の伝統を視点として―」というテーマでどのような講演をなさろうとされていたのかはわかりませんが、先生のこれまでのお言葉に尋ねつつ、「知恩の倫理」、そして報恩講の伝統について考えていきたいと思えます。

さて、この「知恩の倫理」というテーマは、先生がここ数年、ずっとお考えになっておられた問題ではないかと思っております。教学研究の機関誌『教化研究』一五五号(二〇一三年十二月)